

松柏社 / 新刊案内

物語論辞典 **最新刊***A Dictionary of Narratology*

ジェラルド・プリンス著 遠藤 健一 訳 定価3800円

物語への関心は、文学研究の分野ばかりか、哲学、言語学、歴史学、文化人類学、精神分析学、映画学など、広範囲に互っている。アメリカ・イギリスの小説理論、ロシア・フォルマリズム、タルトゥー記号論、フランス構造主義、ドイツ散文理論、テル・アヴィヴ詩学と、その学派もまた広範囲に互っている。ナラトロジー（物語論）とは文学テキストを対象とした物語記号論を指すのが一般的であるが、本書は、地域・分野を問わず、夥しい数にのぼる物語研究の鍵語をほぼ網羅している。

重版出来

世紀末イギリスの芸術と思想

ホルブルック・ジャクソン著 澤井 勇 訳 定価4200円

イギリスにおける19世紀末、それは芸術史・思想史上極めてユニークな時代であった。当時の作家や画家をはじめとする芸術家たちは、それぞれが無縁ながらしかし共通の大気を呼吸し、精神的な一致をみせていたのである。本書は、当時のそうした状況を複眼的視点でとらえ、その知的・想像的営為のありのままの様相を確実な証言に基づいて描き出すことにより、その本質を照らし出した古典的名著の新版の本邦初訳である。

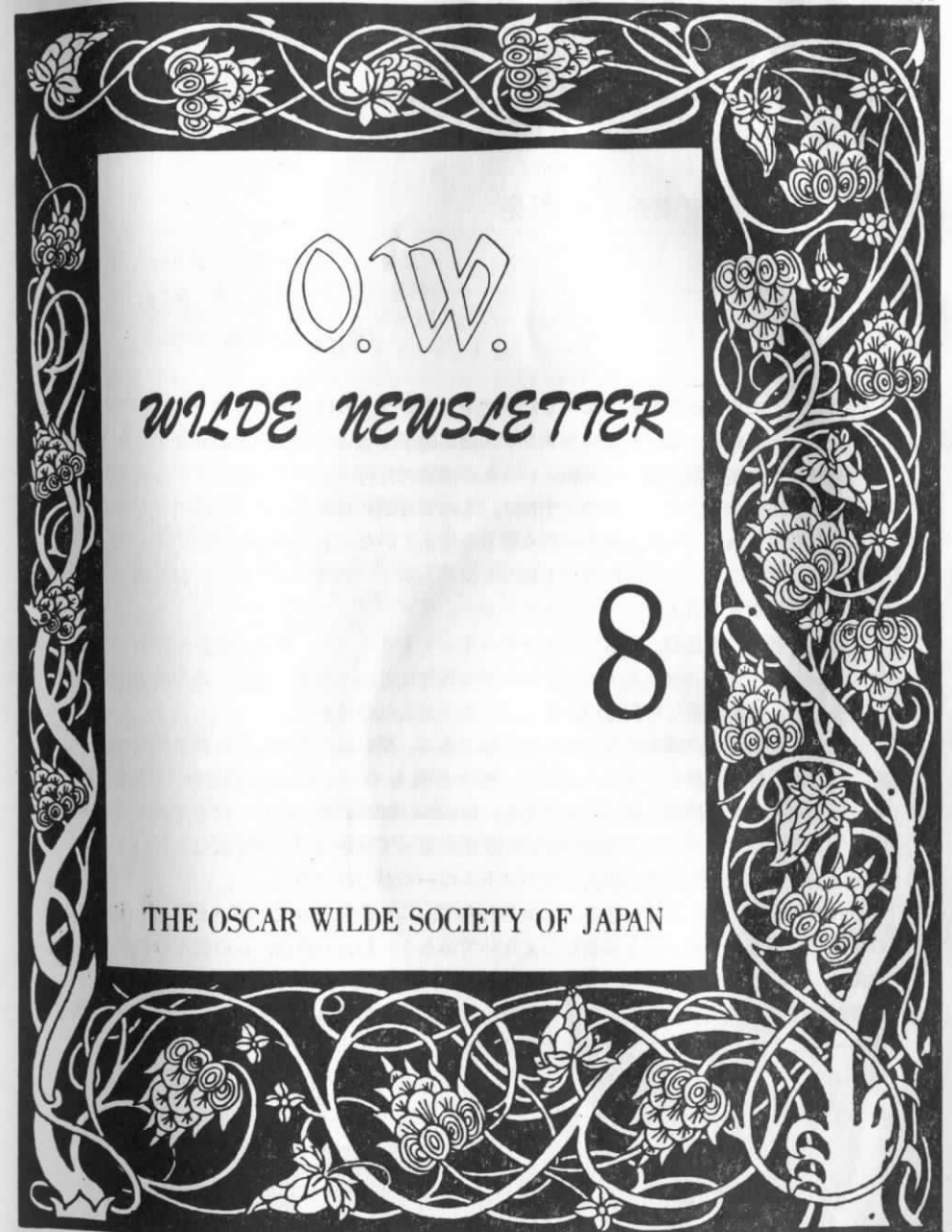
既刊

オスカー・ワイルドの生涯

平井 博 著 定価3605円

小説の方法と認識の方法

野中 涼 著 定価3090円

〒102東京都千代田区飯田橋2-8-1 **松柏社** ☎03-3230-4813代 振・東京0-79095

(巻頭言)

二十世紀末からの出発

川崎 淳之助
(協会会長・立教大学教授)

「世紀末」における芸術家の指向したベクトルというものは、決して単一なものではない。それは、fin de siècle というフランス語が暗示するような、終末論的なデカダンス、あるいは滅びの美意識、死への妄執といった形容辞で片付けるには、あまりにも複雑でかつ交錯した様々のベクトルを持つ。それは、もっとも広い意味で、十九世紀の文芸の文脈から当然予想される自虐的な結末に終る部分を抱えていたことは否定し得ないとしても、同時にまたそれは、十九世紀に対する強烈な拒否と新しい創造へのベクトルをも秘めていたのである。例えて言えば、アール・ヌーボー、モダン・アート、ユージュント・シュティルなど造形美術の諸運動、あるいはメーテルリンクやダヌンツィオなど唯美派の新しい演劇、ヴェルレーヌからマラルメに至る象徴派の詩作などは、在来の文学・造形美術の世界を拒否し、そこから新しい何ものかを創造しようとしたのである。

ワイルドも彼等と共通部分を分有する作家である。早い話、彼の風習喜劇を見ればいい。そこには何ら終末意識も、滅びの美学も、死の妄執もない。むしろ彼独特の「完璧の美学」に支えられた傑作があるばかりである。femme fatale の drame だとされる『サロメ』でさえ、作者がギリシア悲劇の作法の復活を狙って書きつづった悲劇だと言いうる。拒否と創造——世紀末芸術の指向したベクトルの一つがそれである。

それから百年。好むと好まざるとにかかわらず、二十世紀末の文芸がいまや moribund の状況に転落しつつあることは否定しえないであろう。われわれは、この現在の状況をふまえて、改めてわれわれの視点から、前世紀末の文学を、またその造形美術を問い直す必要があるのではなからうか。二十世紀末の現在に立つわれわれにとって、出発すべき地点の一つはまさにそこにあるとわたくしは思う。

目次

(巻頭言) 二十世紀末からの出発	川崎淳之助	1
第12回夏期セミナー『サロメ』復活		
講演要旨：『サロメ』——愛の舞踏	堀江 珠喜	3
研究発表要旨：『サロメ』とパラドックス	貝 嶋 崇	4
講演要旨：さまざまに変容する『サロメ』像	井村 君江	6
朗読『サロメ』	木村 克彦	9
シンポジウム 『サロメ』復活 発題要旨：		
『サロメ』における「欲望」	玉 井 暁	10
『サロメ』における観念としての美	三国 宣子	11
『サロメ』における台詞の躍動について	岩永 祥恵	13
第15回秋期大会		
講演要旨：「表面と象徴」の美学——『サロメ』の台詞について	川崎淳之助	15
研究発表要旨：ワイルドの童話におけるイメージについて	小泉 和弘	17
研究発表要旨：ワイルドと荘子	上條 真一	19
講演要旨：ワイルドとロンドン	小池 滋	20
海外便り	井村 君江	23
関西支部局だより	堀江 珠喜	25
ワイルド書誌		25
協会・会員消息		28
平成2年度夏期セミナー、秋期大会記録		30
日本ワイルド協会規約		31
役員連絡先		32
お知らせ		32
編集後記	澤 井 勇	33

